

参加無料

こそだ まも 子育てを護る

～子と親への支援～

子育てにおいて親子の間はいつもいつもうまくいくとはかぎらない。人間同士だから対立や葛藤が生まれて当然である。いや、それあってこそ、子どもはおとなへと育つのである。わが子は思いどおりのわが子であってくれないかもしれないが、親も子どもにとって思いどおりの親ではありえないのだからイーブンだろう。

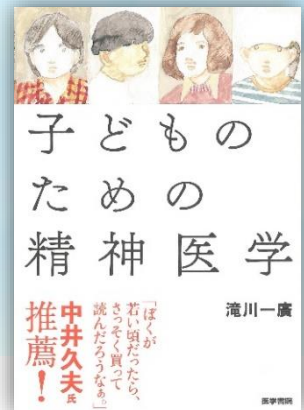
だれしも自分が願うとおりの自分ではあれないし、自分が願うとおりの人生は送れないけれども、だから自分はダメ、人生はダメではないのと同じである。絵に描いたような立派な子育て、絵に描いたようなうるわしい親子関係でなくても、それは少しもダメではない。

(滝川一廣著「子どものための精神医学」より)

日程：11月12日(木) 19:00～21:00 (開場 18:30)

会場：八重山合同庁舎 (石垣市真栄里 438-1)

講師：^{たきかわ かずひろ}滝川 一廣 (児童精神科医)



略歴：1975年 名古屋市立大学医学部精神医学教室入局。岐阜精神病院医長、名古屋市立大学医学部精神医学教室助手、名古屋市児童福祉センター医務係長、名古屋市児童福祉センターくすのき学園長、青木病院医員、愛知教育大学教育学部障害児教育講座助教授、愛知教育大学教育学部障害児教育講座教授、大正大学人間科学部人間福祉学科臨床心理学専攻教授、学習院大学文学部心理学教授を経て、学習院大学文学部心理学教授を定年退任。現在 あなはクリニック、オリブ山病院児童思春期外来、児童心理治療施設ノアーズガーデン。

主著：家庭のなかの子ども 学校のなかの子ども(岩波書店1994)、不登校を解く(共著)(ミネルヴァ書房1998)、教育という「物語」(共著)(世織書房1999)、〈こころ〉の定点観測(共著)(岩波書店2001)、「こころ」はどこで壊れるか(共著)(洋泉社2001)、「こころ」はだれが壊すのか(共著)(洋泉社2003)、「こころ」の本質とは何か(筑摩書房2004)、新しい思春期像と精神療法(金剛出版2004)、学校へ行く意味・休む意味(日本図書センター2013)、子どものそだちとその臨床(日本評論社2013)、子どものための精神医学(医学書院2017)、こころの四季(日本評論社2019)

要事前予約 *裏面参照

対象：関心のある方

定員：100人

*新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県主催イベント等実施ガイドラインに沿って、開催方法はZOOM等を活用したオンライン開催に変更する場合があります。

ご参加のみなさまへお願い

体調のすぐれない方はご来場をお控えください。マスク着用、検温、アルコール消毒等、ご協力をお願いいたします



主催 沖縄県 共催 石垣市、特定非営利活動法人おきなわ CAPセンター

後援 沖縄県教育委員会、沖縄県社会福祉協議会、石垣市教育委員会、石垣市社会福祉協議会

